

介護の合格率は39.8%、看護の合格率は9.6% 合格率低迷の原因を探る

<施設の悩みの声>

声1、4名受験して、2名合格したが、2名は残念ながら不合格だった。入職当初から日本語の先生が指導をしてきた。そして、国家試験対策は介護専門の職員が指導してきたが、半数しか合格には至らなかった。何が悪かったのだろうか。(東京都・T施設)

改善策

- 入職して国家試験までは、3年間の時間があります。このことを有効的に、そして、効果的に活用するためには、3年間の「学習計画」がとても重要なことです。

この計画をどのような計画案にするかで、全てのことが決定されます。まずは、施設内の関係者が計画案について、十分な意志統一ができるようにすることがポイントです。

また、受験者の言語能力に合わせた「学習段階表」を作ることも大切なことです。そして、一挙に日本語学習と、試験対策を同時並行的に行わず、まずは、【日本語力を養う期間】を設けます。

その後「専門知識の習得期間」に移行して、日本語力と専門知識が習得できた後に、「国家試験対策期間」を設けることが、「受験生にとって、無理なく学習できる方法」であることを認識した上で、指導すれば、合格率が確実に高まることになります。

声2、2名受験し、2名とも不合格だった。「このまま同じ日本語の先生に依頼しても成果が上がるのか、学習の仕方や指導方法も変えたほうが良いのではないかと不安に思うのだが、施設の方針は変わらない。以前のまま同じ先生で、同じ方法で学習する予定だ。次回も不合格になると思うと、やる気がなくなってしまう。(栃木県・H施設)

改善策

- まず大切なことは、【教育は学ぶ者のためにある】という原点を、関係者全員が真剣に考える必要があります。そして、教育指導者(日本語教師)はその教育結果に対して、

責任を負う義務があります。前回の試験で不合格者を出した日本語教師を再度、雇用して教育を任せることは、「過ちを繰り返す」とことと言わざるを得ません。プロの社会では、どの分野においても過ちを繰り返すことは許されません。この本質を施設内の関係者間で、十分に話し合う必要があるでしょう。

- 【施設にとっては「経済的に、人的に多大な負担をした上で、外国人雇用をする」ことは、将来の人材確保のため】という大きな課題があります。この目的から外れた行為は、将来の人材不足に対する対策を、自ら放棄しているとしか見えません。あくまでも、受け入れ目的を忘れて、あるいは、目的から外れた行為は、自分たちの働く場を危うくさせる原因となりますので、「場当たり主義や、人脈による人情的な行為など」は、教育の場に持ち込ませないように努力する必要があります。

そのためには、施設内の関係者の意志統一を『将来の労働力の確保』を大前提としたものとして、全ての諸問題に対して適切に対処していく必要があります。その上で、受験生に対する教育は、【教育は科学なり】と、【教育結果は日本語教師の責任】という原理原則を守って、全員合格を目指して努力していけば、必ず、明るい結果が得られるでしょう。

声3、残念ながら二名とも不合格だったので、一年間延長で再度受験する。今までは受験者の意識がインターネットと同国人の影響を受けて、国家試験対策の勉強がしなかった。
日本語力も無いのに、専門用語はなおさら理解できていない状況。来年もまた、前年同様、不合格になるのではないかと不安なので、何とかしたい。(神奈川県・B施設)

改善策

- 同じような「悩みの声」は、全国から寄せられています。この問題の解決方法で重要なことは、「学習環境の整備」という視点が有るか無いかで、問題が生じるか生じないかが決まります。改善策として必要なことは、【体得法で育てる】ということが考えられます。この方法は、「外国人といえども、全く日本人と同様に対応していく方法」です。即ち、外国人を特別扱いせず、日本人社会の中にできるだけ早く溶け込ませることを目的としています。多くの現場では、逆に「外国人だから特別な対応をしなければいけない」と考えて、問題を発生させる原因を作っている場合があります。
- 今回の「悩みの声」も同様で、受け入れ施設の意識として「外国人対応」が原因と言えるでしょう。具体的な改善方法は、まず、施設内の業務を日本人職員と組ませて行わせること。その場合、同国人が複数いても、絶対に同じ職種をさせずに、「稼働表」の中で調整して、様々な職種の業務を経験させるようにすることで、業務内容に興味を持たせるようにしましょう。その結果、毎日の業務に集中する意識が芽生えて、インターネットなどによる母国語を使う情報交換量も減り、本来の目的である「国家試験合格」への意識が強く育つようになります。
- また、日本語力が十分に身につけていないままで、国家試験対策の勉強だけをする傾向が強い者に対しては、日常業務内容の理解と習得に意識がいき、国家試験の過去問題練習などに対する認識が薄れて、介護士としての業務知識の習得を重要視する傾向が強まります。その結果、暗記する知識に対しての意識が変化し、「活かせる知識の習得」を大切に考える考え方に自然に変わっていきますので、このような方向に日常的な業務を通じて、指導することが問題解決の一つとなるでしょう。
- さらに、言語能力育成については、現在の能力がどの程度あるか客観的に把握させることが重要です。例えば、国家試験にこだわる受験生に対しては、試験問題を時間を計り、職員の前で音読させることです。読めない漢字や分からない語彙があったら、マーカーで色づけをさせて、読了後に読めない漢字や分からない語彙の数を数えさせて、その量を認識させることが重要です。受験生の言語能力を自分自身で客観視させることは、言語教育上において、とても重要な要素となりますので、前述の方法を使って是非、実行してみてください。

声4、初めて受入れた候補者は、国家試験を受けることなく途中で帰国。その次に受入れた候補者も来年受験だが帰国願望がある。2年間通して共通して言えることは、日本語力が身につけていなかったこと。学習の仕方は事業団の教材を使った日本語学習や、国家試験対策を行ってきた。次から次へと教材が送られてくるために、こなすことができず、消化不良を起こし、学習意欲が減退していった。良い方法が分からない。(茨城県・A施設)

改善策

- 2年間連続して受け入れた候補者が皆帰国するという声は、他にも全国から弊社に届いています。この原因は、何とんでも「声1」で指摘した「受入れに対する施設の意志統一と、「学習計画」の不十分さに原因があります。これを是非、改善して下さい。
- 学習の仕方に大きな疑問があります。その理由は、日本語力が十分でない外国人に対して、【日本語を外国語として学ぶには、体系的に学ばなければならない】という原則を無視した教材では、「何時間かけても教育効果は上がらない」と断言できます。送られてくる教材を十分に吟味した上で、使用するかしないかを判断して下さい。「数をこなせば何とかできる」というようなものではありません。学習意欲を持続させるためには、受験生が「興味を持つ内容の教材を使用すること」が、一番です。

やり方を変えたら驚きの変化が！

学習の仕方を改善し、 来年の試験合格を目指す！！

- 不合格になったことをきっかけに、「学習計画」の見直しを考えている時、「10 分間テスト」の案内があり、受けてみました。
- 送られてきた考察を読んで、日本語技能の重要性を実感しました。そして、限られた期間内で「どのように受験能力を養っていけば良いのか」とか、「効果的に学べる方法」を電話で相談ができました。
- その結果、現場で即戦力となる介護士としての育成を目指し、「国家試験受験能力到達度試験」に参加しました。早速、4 月から教材を使い、学習を始めてから目に見える変化が出ています。（東京都・U施設）

日本語学習の大切さを、受験生にもっと 分かってもらいたい！！

- 助成金を使い、1 年から 1 年半、横浜市の日本語のボランティアの先生に依頼し、日本語を学習してきました。その後、残りの期間を研修担当が試験対策中心に指導をしてきました。
- 職員の考えは、「業務ができる日本語力をしっかりと身につけさせること」であり、受験生にはそれを話してはいました。しかし、受験生は日本語力がないにも関わらず、「業務上では日本語は支障がないし、国家試験に合格しなければ意味がないので、合格するための勉強だけをしたい」と強く言っていたので、試験対策中心の学習にしてみました。
- 幸いに合格できましたが、日本語ができないために、業務に支障が出て困っています。また、多額の再教育費を使って、日本語力を養うことを考えると、頭が痛いです。受験学習の時から、日本語力をつける方法をとっていたら、こんな事態にならなかったと後悔しています。（神奈川県・M施設）

受験生から、「頑張って日本語を勉強して、合格を目指したい！」という希望で参加！！

- 教育相談の結果、4 月からは、日本人職員と同じように朝から夕方まで、しっかりと仕事に入っています。特別に学習時間は設けていません。
- 「10 分間テスト」を受けたことがきっかけで、受験生本人から日本語を学び、合格を目指したいという希望があり、「国家試験受験能力到達度試験」に参加することにしました。
- まだ参加して 1 ヶ月間しかたないのに、受験生の意識と日本語力に大きな変化が出て、驚いています。合格が楽しみです。（福岡県・R施設）

不合格になって気づくこともある・・・！

- 二名受け入れ、不合格なので再度一年延長で学習します。国家試験を受けた後に、受験者の得意分野と不得意分野とはっきりしていることが分かりました。試験対策をしていた頃は、指導していても、どこまで本当に理解していて、どこが理解できていないのかがよく分かりませんでした。そこで、「10 分間テスト」を受けてみて、本当に理解していないことが数値で明らかにされました。今まで、表面的だけで判断していたことに後悔しています。
- あと半年早く、何か対処できることがあれば良かったと悔やんでいました。以前は、市がバックアップしてくれて研修にも参加していましたが、次から次へと課題が進むために、吸収できていなかったのではないかと思います。反省点を活かし、残りの期間、学習指導をしていきたいです。（神奈川県・K施設）

<教育相談受付中>

受験生の対応や教育について悩みがあれば、下記までご連絡なくご相談下さい。

教育相談係 03-6317-6009

推薦教材

「自学能力を養う」ための有効な教材紹介！！

学習者が勉強したくなる！ 楽しく・分かりやすい専門教材 》

【教材の特徴】 ① 視覚的に学べる

② 日本語の「規則性と用法」が学べる

【基礎言語能力レベルⅠ】

③ 漢字も類推して読める

④ ストーリー性があり、体系的に作られている



【テキスト「100万人の日本語 No.1」】

日本語の基礎知識を身近な事例で、分かりやすい文で書かれており、特に「だれが・なにを・どこで・いつ・どうする」を使って、「規則性と用法」が学べ、自在に会話力が身につくような内容になっています。

※ 習得漢字数 310字～620字
※ 習得語彙数 520語～1,560語



【漢字のーと(1)】

□
『100万人の日本語No.1』に沿った構成となっており、「文型・文の作り方」を習得しながら、効率的に漢字の読み書きが習得できるようになっています。非漢字圏の学習者が漢字習得をする上で最適です。また、中国人学習者にも同様です。



【ひらがなのーと】

□
ひらがな文字の習得に最適な教材です。字形や書き順練習だけでなく、日本語の基礎となる「質問と答え」の仕方に絶対必要な発話方法が学べます。身近な事例を使って学習でき、社会生活に必要な語彙も同時に学べ使える教材です。



【ひらがなカード】

□
表紙にはひらがな文字が一文字ずつ書かれて、裏面にその文字を使った語のイラストが色鮮やかに描かれています。イラスト面には「ひらがな・カタカナ・漢字」の3種類でその言葉が表記されており、学習者が文字を比較しながら、自学できるつくりになっています。基礎教育の日本語学習に最適な内容になっています。

【基礎言語能力レベルⅡ】



【テキスト「100万人の日本語 No.2」】

□
会社や学校、家庭内など場面における会話文を中心に構成され、社会生活に必要な抽象語を理解しながら、性別や立場による言葉の使い分けを習得できます。さらに、本テキストを終了すると、「自分の思いや考え」を意志表現できる能力が身につくように作られています。各ページで、日本語のあらゆる規則性と用法が自学できます。

※ 習得漢字数 420字～840字
※ 習得語彙数 570語～1,710語



【漢字ノート(2)】

□
『100万人の日本語No.2』に沿った内容で、漢字習得と文の作成練習だけでなく、文書に対する読解力も、同時に養えるように作られています。漢字の「へん・つくり」の付録もあり、「漢字の成り立ち」に対する理解が、できる内容となっています。非漢字圏の学習者が漢字を習得する上で最適です。また、中国人には、日本の漢字を理解させる特徴があります。

【レベルⅠとレベルⅡの違い】

レベルⅠは、日本語を学ぶ上で重要な「規則性と用法」を学習して、【聞く・話す・読む・書く】を基本とし、日本人と同等の力を養うことができる能力を育てます。レベルⅡは、会話文を中心に「思いや考え」を日本語で表現できる能力を養います。



【カタカナノート】

□
カタカナ語を使った場面を表すイラストが各ページにあります。このノートは、説明文と会話文が繰り返し使われて作られています。場面を紹介する文は、外資語の理解と、その言い出し練習をしながら、練習問題によって、読解力と文型の応用力を養えるようになっています。

【生活言語能力レベルⅢ】



【テキスト「100万人の日本語 No.3」】

□
テキストNO1とNO2とは違い、NO3では職場での日本語力が発揮できるように、限られた登場人物の日常的生活と仕事を通して、「日本語の使い方(運用)」力が養えるように作られています。そして、登場人物を通じて、会社での習慣や礼儀作法なども合わせて理解できることが特徴です。

※ 習得漢字数 850字～1,200字
※ 習得語彙数 1,110語～3,330語

【レベルⅢの特徴】

日本独特な表現、特に「語感」を習得し、人間関係を考慮した専門領域での日常会話ができる能力を高め、職場での意思伝達ができるようになります。語の種類と文の種類を使い分けながら、要約する能力を養うことで、職場での報告書やレポートが書ける能力が身につけられます。また、日本事情の知識も得られるのが特徴です。

学習段階	教材一覧	価格
レベルⅠ	「ひらがなカード」	¥1,050
	「100万人の日本語No.1」	¥2,550
	「ひらがなのーと」	¥1,800
	「漢字のーと 1」	¥1,360
レベルⅡ	「100万人の日本語No.2」	¥2,550
	「カタカナノート」	¥1,360
	「漢字のーと 2」	¥1,360
レベルⅢ	「100万人の日本語No.3」	¥3,000

※ 送料は別途

※ お問い合わせは弊社まで。 FAX : 03-6677-0632

メール : kotoba_ker@yahoo.co.jp